

2023年度 3Q決算 決算説明資料

2024年2月2日



エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社

■2023年度 3Q累計（4-12月）実績

< 連結 >

- 好調な業績が続く百貨店事業が牽引、営業利益以下各段階利益は3Q累計で過去最高
- 上期同様に全てのセグメントが増益

< セグメント別 >

- 百貨店事業 円安や株高などの外部環境の好影響が継続
消費の本格化により衣料品・化粧品が回復、国内売上が堅調に推移
インバウンド売上が過去最高ペースで推移
販管費は売上連動経費の増加に対し抑制
- 食品事業 点単価の上昇は鈍化も客単価は引き続き前年超え、客数の回復もあり、既存店売上高は前年を超えて推移
販管費は人件費を中心に対予想で抑制
- 商業施設事業 ホテルが高稼働率を継続、大幅増益

■2023年度 通期見通し

- 百貨店事業が想定を上回って推移しており、通期見通しを上方修正
- 営業利益以下の各段階利益は過去最高の見通し

I . 2023年度 3 Q実績

II . 2023年度 通期見通し

- 1 . 連結業績
- 2 . セグメント別業績
- 3 . 百貨店事業
- 4 . 食品事業
- 5 . 商業施設事業
- 6 . 特別利益・特別損失

I - 1. 連結業績

- ▶ 好調な百貨店事業が牽引し大幅に増収増益、営業利益、経常利益、四半期純利益は3Q時点で過去最高
- ▶ 全てのセグメントが増益、通期計画に対して順調に進捗し、営業利益は通期予想を上回る
- ▶ 3Q期間で百貨店旧配送センターの売却益を計上

(単位：億円)	3Q累計		3Q	
	本年	対前年	本年	対前年
総額売上高	8,016	109.1%	2,965	108.5%
売上高	4,955	104.3%	1,769	103.8%
営業利益	222	+127	123	+39
経常利益	239	+123	133	+44
特別利益	44		34	
特別損失	27		15	
親会社株主に 帰属する四半期純利益	178	+68	115	+33

I - 2. セグメント別業績 (3Q累計)

▶ 全てのセグメントで増益、会社予想も超過

(単位：億円)	総額売上高		営業利益	
	本年	対前年	本年	対前年
百貨店	4,247	116.3%	168	+89
食品	3,236	102.6%	72	+27
商業施設	244	88.7%	29	+12
その他	290	108.8%	14	+37
連結調整			▲61	▲38
合計	8,016	109.1%	222	+127

(単位：億円)

H2O単体	対前年
営業利益	+31
グループ内 受取配当金	+28
(全額連結消去)	

I - 3. 百貨店事業 - 業績概要

- ▶ 高額商材、インバウンド売上が強い都心店が好調、阪急本店・博多阪急は前年・予想を大きく上回って推移
- ▶ 売上連動経費が増加したものの、売上増による粗利益増加が大きく上回り増益

阪急阪神百貨店

(単位：億円)	3Q累計		3Q	
	本年	対前年	本年	対前年
売上高	4,221	116.3%	1,646	114.4%
売上総利益	943	+125	369	+43
総利益率	22.34%	▲0.18pt	22.41%	▲0.24pt
その他収入	30	+6	11	+1
販管費	806	+41	283	+9
営業利益	167	+89	97	+35

3Q累計店別売上	対前年
都心店	119%
阪急本店 博多阪急	118% 123%
郊外店	104%

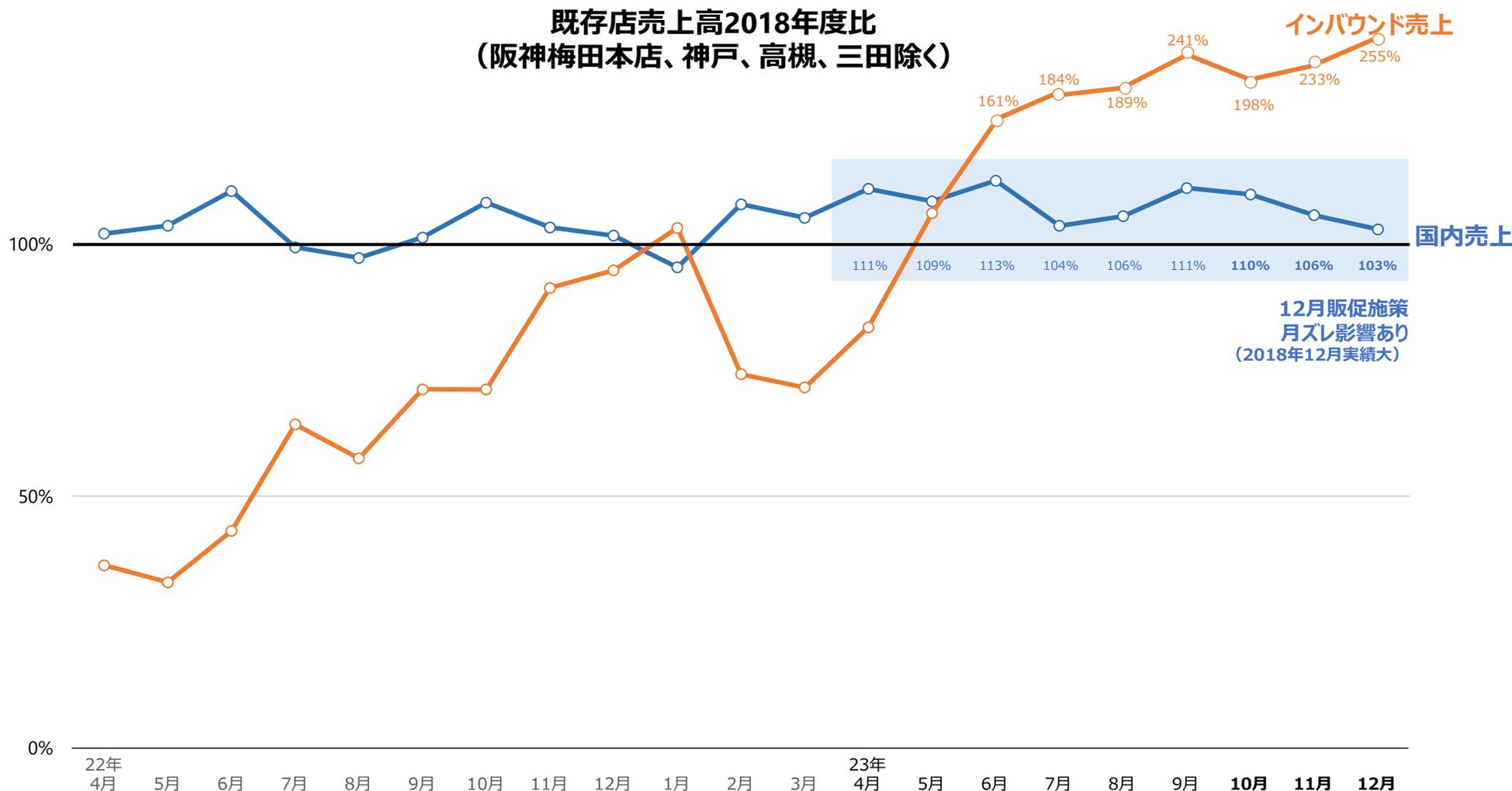
(単位：億円)

3Q累計 販管費増減内訳	対前年
売上連動経費	+16
家賃・減価償却 (阪神梅田本店など)	+15
人件費増	+11

※収益認識に関する会計基準適用前の数値を記載

I - 3. 百貨店事業 - 既存店売上高推移 (2018年度対比)

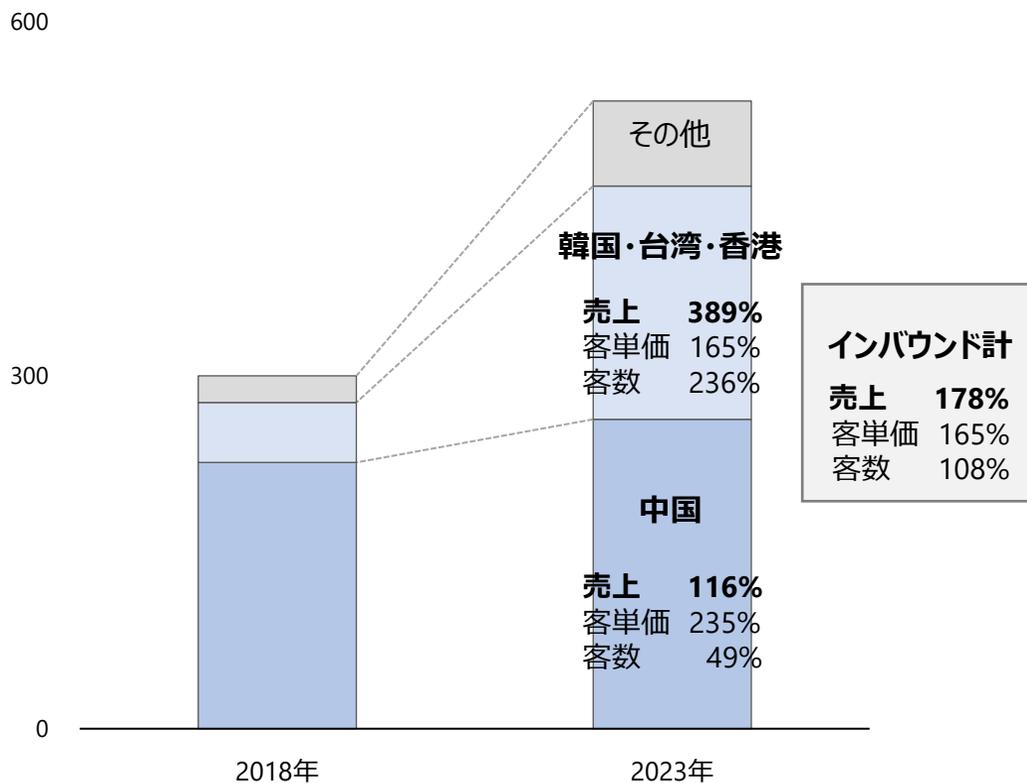
- ▶ 国内売上) 都心店好調・郊外店堅調が継続、商品別では濃淡があるものの全カテゴリーで前年超え
高額商材に加えて、衣料品・化粧品が好調
- ▶ インバウンド売上) 円安・高額商材ニーズの伸長が継続し、6月以降は単月での最高売上の更新が続く



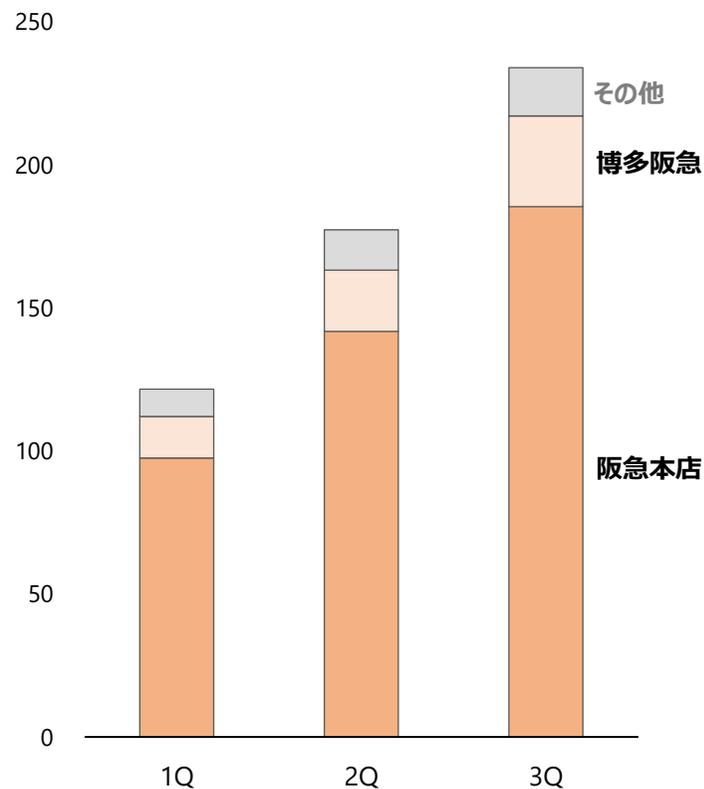
I - 3. 百貨店事業—インバウンド売上

- ▶ 近隣3カ国の伸長、中国の回復によりインバウンド全体で2018年比1.8倍まで拡大、客数・客単価ともに2018年水準超え円安継続により、客単価が高水準で推移
- ▶ 6月以降インバウンド売上は単月での過去最高を連続して更新、3Q期間平均日商は2.5億円と11月予想（同1.3億円）を上回って推移

単位：億円 **3Q累計国別インバウンド売上**



単位：億円 **店別売上**



I - 4. 食品事業

- ▶ 22年10月からの値上げが一巡し点単価の上昇は鈍化も、客単価は引き続き前年を超える。客数も安定して前年を超え、既存店売上高は前年を上回って推移
- ▶ 売上増加による粗利益の増加に加え、販管費を予想から抑制し増益
- ▶ 食品製造は惣菜・ベーカリーが好調、宅配は阪急キッチンエール関西の新センター稼働と会員システム変更による影響で減収減益

(単位：億円)	3Q累計				3Q			
	売上高		営業利益		売上高		営業利益	
	本年	対前年	本年	対前年	本年	対前年	本年	対前年
イズミヤ・ 阪急オアシス	1,891	102.6% <small>既存店 104%</small>	49	+21	662	102.8% <small>既存店 104%</small>	21	+2
関西 スーパーマーケット	994	103.4% <small>既存店 104%</small>	32	+12	342	103.0% <small>既存店 104%</small>	12	+3
食品スーパー2社計	2,885	102.9%	82	+33	1,004	102.9%	33	+5
食品製造・ 宅配計	306	96.4%	▲3	▲3	110	99.4%	1	▲1

※収益認識に関する会計基準適用前の数値を記載

I - 5. 商業施設事業

- ▶ 大井開発の業績伸長により、3Q累計で大幅増益
- ▶ 大井開発が運営するビジネスホテルは3Q期間も高稼働率を維持し、過去最高益ペースで推移
- ▶ 大井開発除く子会社ではH2O商業開発の店舗閉鎖の影響もあり減収（想定通り）

(単位：億円)	3Q累計				3Q			
	売上高		営業利益		売上高		営業利益	
	本年	対前年	本年	対前年	本年	対前年	本年	対前年
大井開発	47	159.5%	20	+13	17	141.1%	8	+4
大井開発除く計	213	81.4%	11	+0	74	80.1%	5	▲0

※収益認識に関する会計基準適用前の数値を記載

I - 6. 特別利益・特別損失

▶ 3Q期間で固定資産売却益（百貨店旧配送センター土地）を計上

(単位：億円)	主な項目	金額	主な内容
特別利益	固定資産売却益	44	百貨店旧配送センター土地売却 旧イズミヤ大久保店 土地売却
特別損失	固定資産除却損	21	阪急阪神百貨店 (阪急本店、神戸阪急、高槻阪急)
	事務所移転費用	3	食品事業 本社部門集約
	減損損失	2	
	店舗等閉鎖損失	2	

Ⅱ. 2023年度 通期見通し

- ▶ 百貨店事業が想定を上回って推移しており、通期見通しを上方修正
- ▶ 好調が続く百貨店事業が牽引し、売上、営業利益、経常利益、純利益は過去最高を見込む

(単位：億円)	通期			上期		下期		
	修正予想	対前年	対中期 経営計画	実績	対前年	修正予想	対前年	対11月 予想
総額売上高	10,600	108.2%	114.0%	5,052	109.5%	5,548	107.1%	101.8%
売上高	6,830	108.7%		3,185	104.6%	3,645	112.6%	100.8%
営業利益	245	+131	+75	99	+88	146	+43	+25
経常利益	260	+130	+120	107	+78	153	+52	+35
親会社株主に 帰属する 当期純利益	180	+16		63	+35	117	▲19	+50

Ⅱ. 2023年度 通期見通し

- ▶ 11月公表見通しから百貨店事業を上方修正
- ▶ 百貨店以外のセグメントはおおむね想定通り進捗

	総額売上高	
	通期予想	対前年
(単位：億円)		
百貨店事業	5,653	114.9%
食品事業	4,218	101.4%
商業施設事業	349	98.1%
その他事業	380	105.1%
連結調整		
合計	10,600	108.2%

営業利益		
通期予想	対前年	対中期 経営計画
200	+ 97	+ 65
80	+ 25	+ 18
30	+ 12	+ 12
▲2	+ 29	+ 18
▲63	▲32	▲38
245	+ 131	+ 75



本資料に記載された情報については、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害に関しても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いませんので、ご承知おき下さい。

また、本資料の著作権は全て当社に帰属し、著作権法に定める私的利用の範囲を超えて無断で、複写・転載等することを禁じます。